

架空線事故は防げる事故です！

～架空線近接工事では、合図・誘導を周知徹底して作業しましょう～



架空線事故はひとたび発生すると社会的影響が大きな事故です。場合によっては、110番や119番への緊急連絡ができなくなる、信号が点灯せず交通がマヒする、近隣の工場操業や事務所機能が停止する、ということも発生します。また、電線に接触した場合には、放電で作業者が被災することもあります。適切な措置と行動で架空線事故を防ぎましょう。

事件事例 架空線の安全対策をせず、事故発生

【事故概要】 作業ヤード内でバックホウのアームを上げた状態で移動したところ、道路照明の架空線をバックホウのアームで切断したものの。

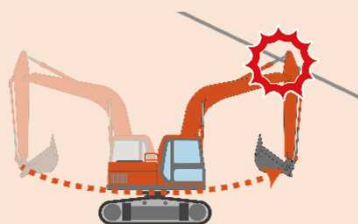
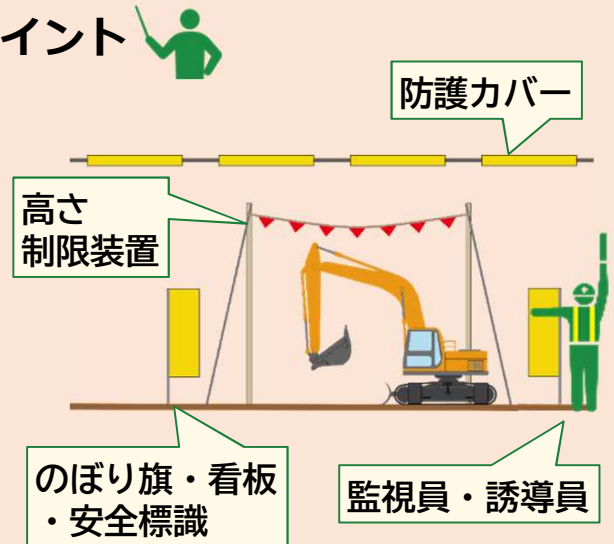
【主な要因】 ①架空線に関する安全教育が不十分であった。
②のぼり旗の設置など、架空線に関する安全対策が行なわれていなかった。

【再発防止対策】 ①架空線に関する安全教育を実施する。
②危険箇所へののぼり旗・看板等で危険箇所があることを明示し、高さ制限装置（赤旗）や防護カバーを設置する。



架空線事故の防止ポイント

- 高さ制限装置（赤旗）、のぼり旗・看板など、適切な措置と行動を取れば架空線事故は防げる事故です。
- 架空線に近接して作業をする場合には、防護カバー※、高さ制限装置（赤旗）、のぼり旗・看板・安全標識を必ず設置しましょう。（※防護カバーは架空線管理者に依頼）
- バックホウの旋回時や移動時に架空線の接触事故が発生しています。「移動させるだけ」と考えず、必ず重機監視員・誘導員を配置して、重機オペレーターは監視員等の合図を確認した上で操作しましょう。（伝わりやすい合図を事前に確認しましょう）
- ダンプトラックの荷台を降ろし忘れて架空線や橋桁に接触する事故が毎年のように発生しています。一般道への出入口には監視員を配置し、監視員に荷台格納の確認を受け、了解が出てから出発するようにしましょう。



バックホウの旋回時・移動時に事故が発生しています。監視員等を適切に配置しましょう。



ダンプアップの事故も多く、荷台が降りていることをしっかり確認しましょう。

架空線と離隔をとることを徹底することで、事故を防止しましょう。

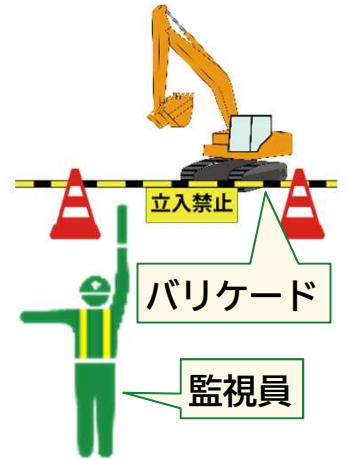
重機と作業員の共同作業での事故に注意！



～重機接触事故は作業中以外にも発生します～

重機はほとんどの現場で使用されており、常に危険と隣り合わせといえます。関係者全員がその危険性を認識して、一人ひとりが積極的に事故防止に努めましょう。

- 人間はついつい近道行動、省略行動をしてしまいます。また、思い込みもあり、決められたルールが必ず守られるとは限りません。重機作業範囲などを周知するだけでなく、**バリケード・ロープなどの物理的対策と重機監視員による監視**を行いましょ。う。
- 誘導員は、重機オペレーターから見やすく、かつ全体を見通せる場所で誘導しましょう。現場内で重機を走行し移動させる際も、**監視員・誘導員を配置**しましょう。（オペレーターが監視員等の合図に気づかないことによる事故が発生しています。**伝わりやすい合図を事前に確認**しましょう）
- 重機積み降ろしの最中、**誘導員の死角で作業員と接触する事故も発生**しています。**誘導員はこまめに状況を確認**しましょう。



- 法肩崩壊の危険性があるので、法肩付近の作業では重機を法肩に近づけさせない作業計画とし、**法肩には注意喚起を表示**しましょう。



オペレーターと監視員・誘導員がしっかりと連携して、事故を防ぎましょう。

飛来落下事故は重篤なケガにつながります！



～飛来落下事故は不十分な安全対策が大きな原因です～

ものが高い位置から落下して人を直撃すると、重大なケガを負ったり、死亡に繋がる危険性があります。小さなものでも落下で加速するので、直撃すると衝撃は小さくありません。ものを落とさないことが基本ですが、落ちた場合には、被害を防ぐための措置が必要です。

- 高所作業では、携帯する工具は必要最低限とし、**工具は安全紐**などによって落下防止を施しましょう。
- 材料等が落下するおそれのある箇所には、**作業床の端に幅木、メッシュシート、防網などを設置**しましょう。
- 資材などを仮置きする際は、倒壊や落下防止のため、**ロープやシートを掛け、落下防止処置**を行いましょ。う。
- 地上でできる作業は地上で行い、高所作業は避けましょ。う。
- 落下防止対策をしても、何かが落ちてくる恐れがある場所は、立ち入りを制限しましょ。う。



- 近畿地方整備局の事故防止重点対策項目「資材・仮設材及び工具の飛来落下による事故」は、壁等の倒壊による上方からの落下、強風による資材などの飛散を含んでいます。
- 足場などはあくまでも仮設物なので、強度自体は弱いといえます。日々の点検はもちろんのこと、強風や大雨などの**悪天候が予測される時は念入りな点検、倒壊や飛散を防ぐための措置**を行いましょ。う。
- 悪天候や地震の後に作業を開始する前には、**損傷や取付、ねじの緩み、手すりの脱落が無いかなど、点検**しましょ。う。



何重にも安全対策を施し、事故を防ぎましょう。